

都市と自然のバランスのとれた 住みよさ日本一の星ふるまち

くだまつ
下松市という地名は、推古天皇の頃、^{わしずのしょうあおやぎのうら}鷲頭庄青柳浦の松の木に大星（北辰星ともいわれている）が降り、七日七夜光輝き「百済の皇子がこの地へやって来る」というお告げがあったことに由来し、それから3年後、百済からやってきた皇子が後に山口を治めた大内氏の祖とされる^{りんしょうたいし}琳聖太子といわれています。

このことから「星が降った松」が「降り松」、「下松」となったといわれています。

また、一説によれば、琳聖太子が渡来し、以来百済との交易が開けたことにより、百済と貿易する港（津）、百済津（くだらつ）がなまって「くだまつ」となり、「下松」と書きあらわすようになったともいわれています。

これらの言い伝えが継承され、暮らしの中に「星ふるまち下松」として息づいています。

《下松市民憲章》

わたくしたち 下松市民は
英知と 友愛と 勇気をもって

きまりを守り 明るいまちをつくる
花と緑を愛し 美しいまちをつくる
スポーツに親しみ 健やかなまちをつくる
生産に励み 豊かなまちをつくる
若い力を育て 伸びゆくまちをつくる

Greeting from the Mayor ごあいさつ

下松市は、瀬戸内海に面し、天然の良港を背景に大正時代から現在まで工業都市として幅広いものづくりが活発に行われてきました。近年では大型商業施設の相次ぐ出店により、商業や物流の拠点地域としても躍進を続けています。

また、自然豊かな山や海に囲まれ、活気ある「まち」と安らげる「さと」がコンパクトにまとまった「住みよいまち」として高く評価されています。

私は、先人が築いたわがまちのさらなる発展と住みよさ日本一を目指し、「市民力」、「地域力」、「産業力」を結集したオール下松で諸施策を展開しています。

本要覧により、下松市への理解を深めるとともに、魅力を感じ取っていただき、本市と関わるきっかけにいただければ幸いです。

下松市長 国井 益雄



下松市

面積：89.34km² 総人口：56,630人 総世帯数：26,963世帯

（2024年9月末）



市章
下松の「下」と笠戸湾の静かな波を松葉で表現し、丸くかたどった円は「和」を表しています。



市民の花
「サルビア」



市の木
「ヤマモモ」